

第1回名鉄広見線（新可児駅～御嵩駅）対策協議会

とき 平成20年5月2日（金）午前10時より

場所 御嵩町中公民館 3階大ホール

1 開会

2 あいさつ（御嵩町長）

3 名鉄広見線（新可児駅～御嵩駅）の今までの経緯及び名鉄広見線（新可児駅～御嵩駅）対策協議会の趣旨について

4 議事

(1) 名鉄広見線（新可児駅～御嵩駅）対策協議会規約(案)について

(2) 名鉄広見線（新可児駅～御嵩駅）対策協議会の会長及び副会長の選出について

(3) 名鉄広見線（新可児駅～御嵩駅）対策協議会会長あいさつ

(4) 名鉄広見線（新可児駅～御嵩駅）対策協議会の顧問及び監事の委嘱について

(5) 顧問、委員及び関係者（中部運輸局、岐阜県）の紹介について

(6) 名鉄広見線（新可児駅～御嵩駅）の状況について

(7) 名鉄広見線（新可児駅～御嵩駅）対策協議会の平成20年度事業計画(案)と平成20年度予算(案)について

(8) 名鉄広見線（新可児駅～御嵩駅）対策協議会の今後の事業予定について

5 鉄道事業を取り巻く状況等について

中部運輸局鉄道部長 渡邊正文 様

6 閉会のあいさつ

名鉄広見線（新可児駅～御嵩駅）対策協議会 名簿

<顧問>

岐阜県議会議員 小原 尚 岐阜県議会議員 村上孝志 岐阜県議会議員 渡辺猛之

<委員>

	御嵩町	可児市	八百津町
首長	御嵩町長 渡辺公夫	可児市長 山田 豊	八百津町長 赤塚新吾
議会	御嵩町議会議長 梅原 勇	可児市議会議長 肥田正志	八百津町議会議長 滝上和美
	御嵩町議会名鉄路線対策 特別委員会委員長 安藤博通	可児市議会名鉄広見線対 策特別委員会委員長 可児教和	
教育関係者	御嵩町教育長 丹羽一仁	可児市教育長 井戸英彦	八百津町教育長 後藤 收
	可茂地区高等学校PTA連合会 田原理香		
	可茂地区高等学校校長会会長（岐阜県立可児高等学校校長） 石井昭司		
	岐阜県立東濃高等学校校長 中島 潤		
	岐阜県立東濃実業高等学校校長 足立司郎		
	岐阜県立八百津高等学校校長 坂井俊郎		
経済関係者	御嵩町商工会 谷口鈴男	可児商工会議所 桑下和弘	八百津町商工会 佐合重光
	御嵩町観光協会 伊崎公介	可児市観光協会 林 則夫	
住民代表者	御嵩町自治会長連絡 協議会 福嶋壽雄	可児市自治連絡協議会 伊佐治昭男	

<関係者（指導・助言）>

国土交通省中部運輸局鉄道部長 渡邊正文 岐阜県都市建築部公共交通課長 岡田芳和

<事務局>

御嵩町総合政策課 課長 鍵谷昌孝 係長 小木曾昌文
 可児市総合政策課 課長 古山隆行 係長 瀬瀬新吾
 八百津町地域産業課 課長 脇山泰男 課長補佐 岩井 満

第1回名鉄広見線（新可児駅～御嵩駅）対策協議会
議事等綴り

平成20年5月2日

名鉄広見線（新可児駅～御嵩駅）の今までの経緯

- ◆平成 18 年 1 月 26 日～平成 19 年 5 月 28 日 名鉄・御嵩町・可児市の三者により利用促進等について協議（7 回） 路線の利用状況の報告、利用促進策の意見交換などを実施
- ◆平成 19 年 6 月 21 日 第 1 回名鉄広見線（新可児駅～御嵩駅）対策協議会を開催
名鉄：この路線の活性化に向けて、地元と協議して利用促進を図っていくことが必要。
今後は、幹事会（事務レベル）を中心に利用促進や合理化案を模索していく

名鉄広見線（新可児駅～御嵩駅）対策協議会の概要について

（目的）

名鉄広見線新可児駅～御嵩駅の公共交通機関としての利用促進を図るとともに、費用削減ほか維持存続に向けての必要な事項を検討し実施することを目的とする。

（組織）

協議会は、御嵩町、可児市及び名古屋鉄道株式会社で組織する。

会長：御嵩町副町長

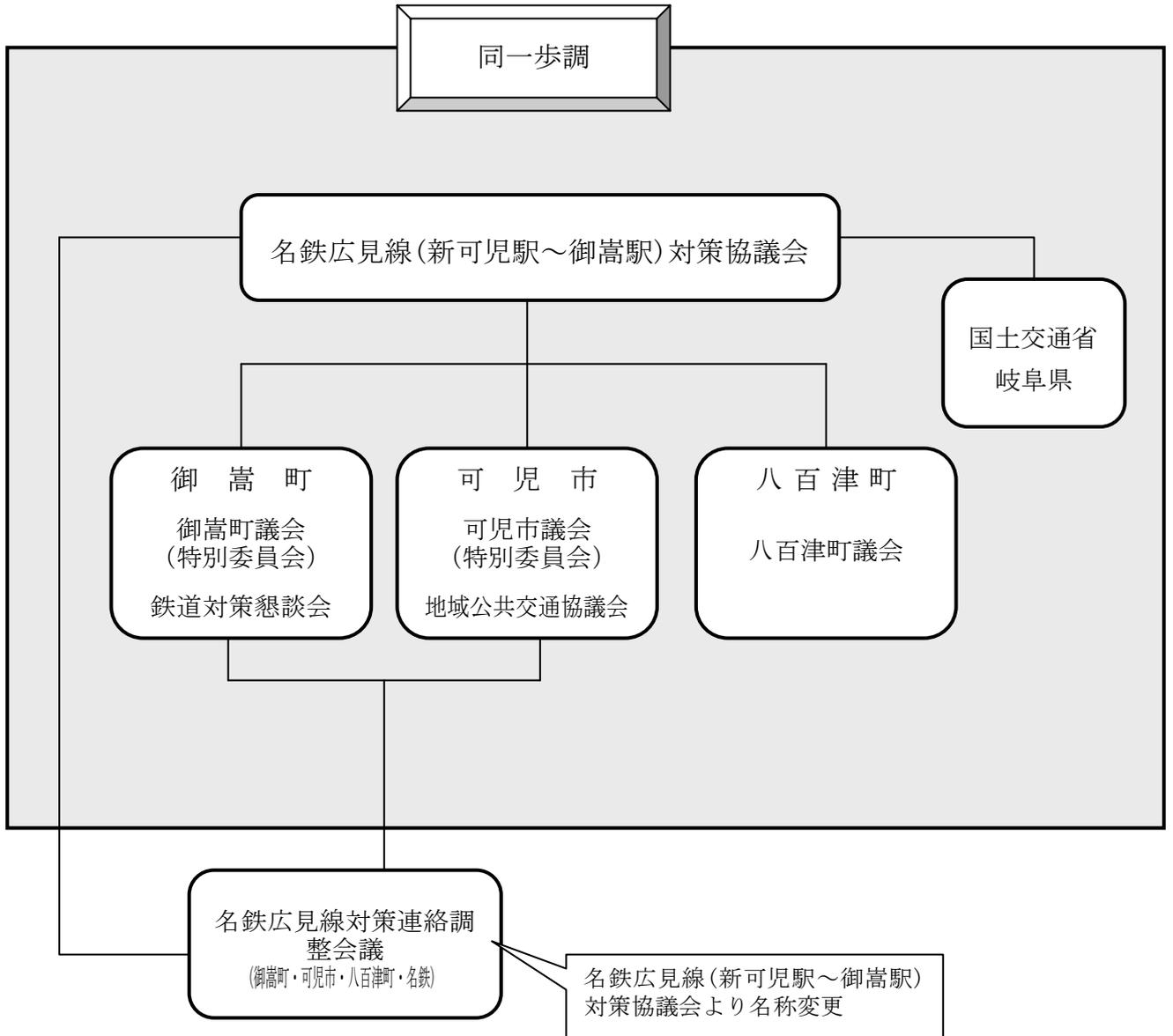
副会長：可児市企画部長

〃：名古屋鉄道株式会社鉄道事業本部長

協議会に幹事会（三者の担当課長で組織）を置き、目的に掲げる事項についての調査研究を行う。

- ◆平成 19 年 7 月 20 日、9 月 28 日 名鉄広見線（新可児駅～御嵩駅）対策協議会幹事会において利用促進等に関する協議
- ◆平成 19 年 11 月 2 日 名鉄広見線（新可児駅～御嵩駅）対策協議会幹事会において名鉄より次の申し入れがあった。
 - ・年間の赤字額が 2 億 4 千万円超であり、今のまま（名鉄による路線運行）では、この路線を維持できない。
 - ・沿線自治体として、この路線についてどう考え、どうしていくのかを来年 20 年 12 月末までに示してほしい。
- ◆平成 20 年 1 月 9 日 名鉄広見線（新可児駅～御嵩駅）対策協議会幹事会において、名鉄広見線のワンマン化などの経費削減策を検討している旨の説明を受ける。
- ◆平成 20 年 2 月 6 日 第 2 回名鉄広見線（新可児駅～御嵩駅）対策協議会において
名鉄側 鉄道は大量輸送が大きな目的で、利用者が減っている状況で、その目的を果たしているのか？公共交通には輸送量に応じて、路線バスやコミュニティバスなどもあるので、その視点でも検討してほしい。
御嵩町・可児市
現状の分析や意識調査に基づく対応策の検討などプロセスを踏む必要がある。今年の 12 月末までに方向性を出すのは難しい状況であり、お互いに話を詰めながら方向性を出して行きたい。
- ◆平成 20 年 3 月 11 日 可茂地区高等学校 P T A 連合会より存続要望書受理
名鉄西部支配人、御嵩町長、可児市長の三者へ提出

- ◆平成 20 年 3 月 19 日 御嵩町長、可児市長 2 者会談
 - 新可児駅～御嵩駅の区間を守っていくこと
 - 首長として名鉄へ訪問すること
 - 一本化した組織を立ち上げ、同一步調で取り組んでいくこと などを確認した。



名鉄広見線（新可児駅～御嵩駅）対策協議会規約（案）

（名称）

第1条 本会は、名鉄広見線（新可児駅～御嵩駅）対策協議会（以下「対策協議会」という。）と称する。

（目的）

第2条 対策協議会は、御嵩町、可児市及び八百津町（以下「関係市町」という。）が、名鉄広見線（新可児駅～御嵩駅）（以下「名鉄広見線」という。）の存続問題に対する対応策を調査、協議等することを目的とする。

（協議等事項）

第3条 対策協議会は、前条の目的を達成するため次に掲げる事項について調査、協議等を行うものとする。

- (1) 名鉄広見線の利用促進に関する事項
- (2) 名鉄広見線の運行形態等に関する事項
- (3) 前2号に掲げるもののほか、名鉄広見線の対応策に関する必要な事項

（委員）

第4条 対策協議会の委員は、別表に掲げる者をもって組織する。

（役員）

第5条 対策協議会に次の役員を置く。

- (1) 会長 1名
 - (2) 副会長 2名
 - (3) 監事 2名
- 2 会長及び副会長は、委員の互選によってこれを定める。
 - 3 監事は、委員のうちから会長が委嘱する。

（役員の仕事）

第6条 会長は、対策協議会を代表し、会務を掌理する。

- 2 副会長は、会長を補佐し、会長に事故あるときは、その職務を代理する。
- 3 監事は、対策協議会の会計を監査する。

（会議）

第7条 会議は、会長が必要に応じて招集する。

- 2 会議は、委員の半数以上の出席がなければ開くことができない。
- 3 会長は、会議の議長となる。

（表決）

第8条 対策協議会の議事は、出席委員の過半数で決し、可否同数のときは、議長の決するところによる。

（顧問）

第9条 対策協議会に顧問を置くことができる。

- 2 顧問は、会長が委嘱する。

（関係者等の出席）

第10条 対策協議会は、必要に応じて関係者等を会議に出席させ、説明又は助言を求めることができる。

（経費の負担及び会計処理）

第11条 対策協議会の運営に必要な経費は、関係市町の負担金その他の収入をもって充てる。

2 協議会の会計年度及び会計処理の方法は、会長が別に定める。

(報酬)

第12条 対策協議会は、委員及び顧問に報酬を支給することができる。ただし、委員又は顧問が常勤の特別職又は一般職の職員にある場合は、この限りでない。

(事務局)

第13条 対策協議会の事務を処理するため、対策協議会に事務局を置く。

2 対策協議会の事務局は、御嵩町役場に置く。

(雑則)

第14条 この規約に定めるもののほか、対策協議会に関し必要な事項は、会長が会議に諮り定める。

附 則

この規約は、平成20年5月2日から施行する。

別表（第4条関係）

	御嵩町	可児市	八百津町
首長	御嵩町長	可児市長	八百津町長
議会	御嵩町議会議長 御嵩町議会名鉄路線対策特別委員会委員長	可児市議会議長 可児市議会名鉄広見線対策特別委員会委員長	八百津町議会議長
教育関係者	御嵩町教育長	可児市教育長	八百津町教育長
	可茂地区高等学校PTA連合会代表者 可茂地区高等学校校長会会長 岐阜県立東濃高等学校校長 岐阜県立東濃実業高等学校校長 岐阜県立八百津高等学校校長		
経済関係者	御嵩町商工会代表者 御嵩町観光協会代表者	可児商工会議所代表者 可児市観光協会代表者	八百津町商工会代表者
住民	御嵩町自治会長連絡協議会代表者	可児市自治連絡協議会代表者	

名鉄広見線（新可児駅～御嵩駅）対策協議会会計事務規程

（趣旨）

第1条 この規程は、名鉄広見線（新可児駅～御嵩駅）対策協議会規約（以下「規約」という。）

第11条第2項の規定に基づき、必要な事項を定めるものとする。

（歳入歳出予算）

第2条 名鉄広見線（新可児駅～御嵩駅）対策協議会（以下「対策協議会」という。）の会計年度は、4月1日に始まり、翌年3月31日に終る。

2 対策協議会の予算は、規約第11条第1項の規定に基づく負担金その他の収入をその歳入とし、対策協議会の事務に要するすべての経費を歳出とする。

2 対策協議会の会長（以下「会長」という。）は、毎会計年度予算を調製し、対策協議会の会議を経なければならない。

（予算の補正）

第3条 会長は、対策協議会に係る既定予算に補正の必要が生じた場合は、これを調製し、対策協議会の会議を経なければならない。

2 前項の規定にかかわらず、会長は、急施を要し、会議を開くいとまがないとき又は補正が軽微な額であるときは、歳出予算の流用をすることができる。この場合において、会長は、直近の対策協議会の会議に報告しなければならない。

（出納及び現金の保管）

第4条 対策協議会の出納は、会長が行う。

2 対策協議会に属する現金は、会長の属する市町の例により銀行その他の金融機関に、これを預け入れなければならない。

（対策協議会出納員）

第5条 会長は、対策協議会の事務局職員のうちから対策協議会出納員を指名することができる。

2 対策協議会出納員は、協議会の出納その他の会計事務を行うものとする。この場合において、対策協議会出納員は、出納簿を備え、出納の管理を行うものとする。

（決算等）

第6条 会長は、対策協議会の決算を調製し、対策協議会の監事の監査に付した後、対策協議会の会議の認定を経なければならない。

（収入及び支出の手続）

第7条 対策協議会の予算に係る収入及び支出の手続は、会長の属する市町の例によりこれを行うこととする。

（雑則）

第8条 この規程に定めるもののほか、対策協議会の会計事務に関し必要な事項は、会長の属する市町の例により、会長が定める。

附 則

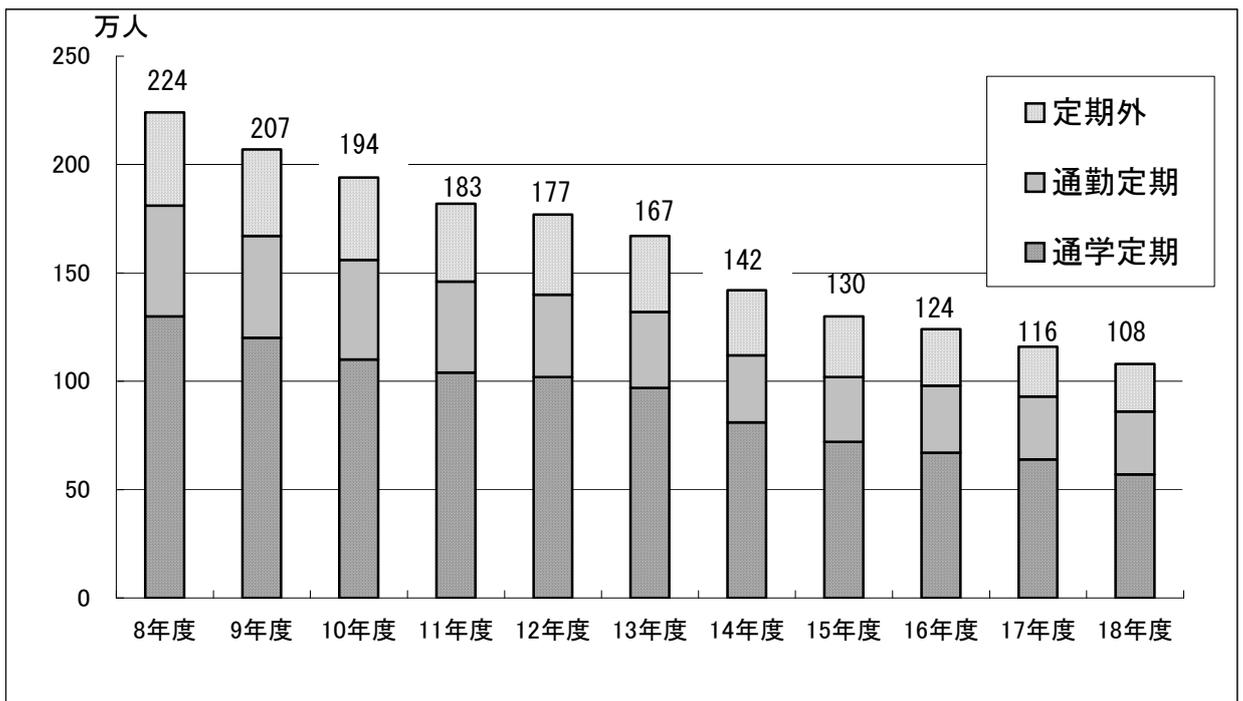
この規程は、平成20年5月2日から施行する。

名鉄広見線（新可児駅～御嵩駅）の状況

（１）概要

営業キロ 7.4キロ
 駅数 5駅（新可児駅 明智駅 顔戸駅 御嵩口駅 御嵩駅）
 基本ダイヤ 2本／時
 運行本数 （平日）83本／日、（土日休）71本／日
 列車組成 2両～4両

（２）名鉄広見線（新可児駅～御嵩駅）輸送人員（万人／年間）（資料提供：名古屋鉄道）



【8年度と18年度の比較】利用者内訳の比較

単位：万人

区分	8年度	18年度	減少人数	減少率
通学定期	130	57	▲ 73	56.2%
通勤定期	51	29	▲ 22	43.1%
定期外	43	22	▲ 21	48.8%
計	224	108	▲ 116	51.8%

この路線の特徴は、通学による定期利用者が6割程度占めており、利用者が全体的に減っている中、特に通学定期利用者が8年と18年とでは、年間73万2千人56.2%減と大きく落ち込んでおり、これが大きな要因と思われます。

また、通学定期の利用者だけでなく、通勤定期利用者や通院・買い物など随時利用者も合わせて約42万人（45.3%）減少し、それぞれが大きく減少しています。

（３）名鉄広見線（新可児駅～御嵩駅）輸送密度

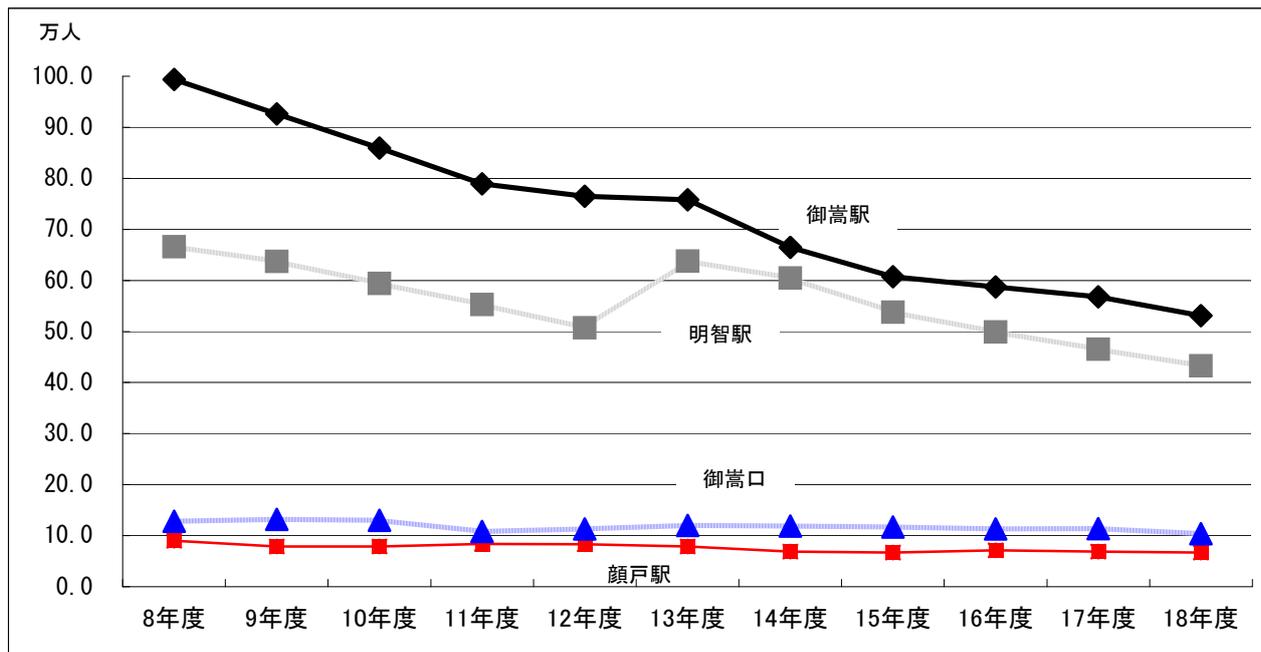
（資料提供：名古屋鉄道）

8年度 4,274人／日

18年度 2,257人／日 減少率 ▲47.2%

*輸送密度とは、1日1km当たりの平均輸送人数のことをいう。

(4) 名鉄広見線（新可児駅～御嵩駅）各駅（新可児除く）年間乗降客数 （資料提供：名古屋鉄道）



御嵩駅と明智駅で大きく乗降客数が減少しています。東濃高校をはじめ、東濃実業高校など高校生の通学定期利用者の減少が主な要因と考えられます。

明智駅が13年度に増えているのは、平成13年10月の名鉄八百津線廃止によるYAOバスとの乗り換え利用者によるものと思われます。

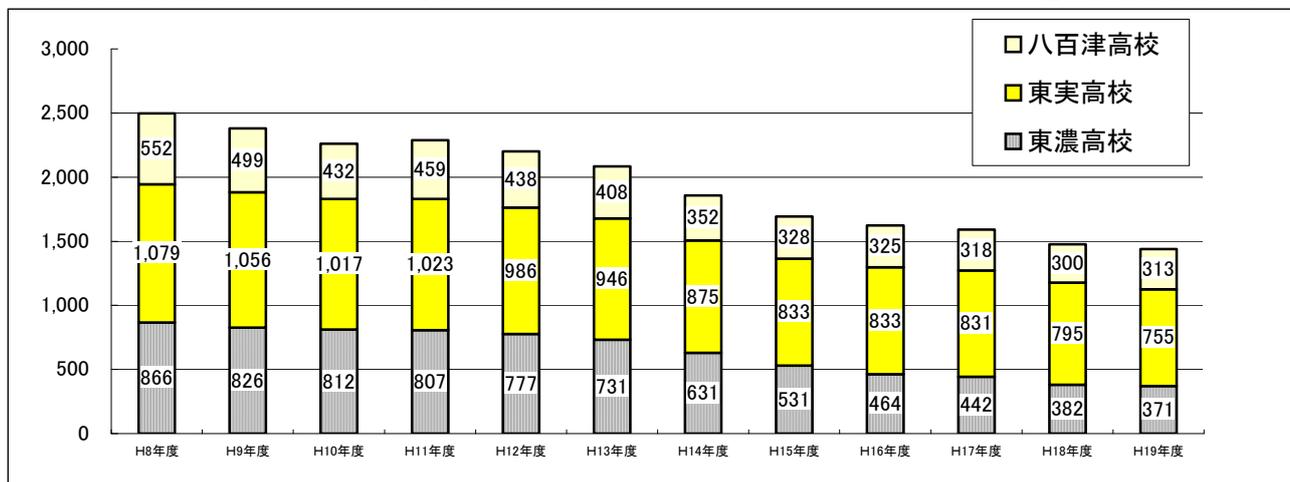
(5) 高等学校生徒数の推移 [広見線（新可児駅～御嵩駅）沿線3校]

- ・平成18年度と平成8年度の生徒数を比較すると、東濃高校と八百津高校は半分程度まで、東濃実業高校は2校に比べると減少幅は少ないが、4分の3程度まで減少しています。
- ・3校の生徒数の合計は、10年前より約1,000人減少しています。

区分	H8	H9	H10	H11	H12	H13	H14	H15	H16	H17	H18	H19	H8とH18との比較	
													増減数 H18-H8	増減率 H18/H8*100
東濃高校	866	826	812	807	777	731	631	531	464	442	382	371	▲ 484	44.1%
東濃実業高校	1,079	1,056	1,017	1,023	986	946	875	833	833	831	795	755	▲ 284	73.7%
八百津高校	552	499	432	459	438	408	352	328	325	318	300	313	▲ 252	54.3%
合計	2,497	2,381	2,261	2,289	2,201	2,085	1,858	1,692	1,622	1,591	1,477	1,439	▲ 1,020	59.2%
(参考)東濃高校・東濃実業高校の計	1,945	1,882	1,829	1,830	1,763	1,677	1,506	1,364	1,297	1,273	1,177	1,126	▲ 768	60.5%

(出典：東濃高校・東濃実業高校：H8～18御嵩町、H19各校／八百津高校：高校)

(注)▲はマイナス(減少)を表す



(6) 可茂地区内高校の名鉄広見線利用者数調査

- ・東濃高校は、生徒の過半数が広見線を利用しています。(56.1%・208人)
- ・東濃実業高校は、生徒の4分の1程度が広見線を利用しています。自転車等による通学者が多いと考えられます。(23.3%・176人、雨天等では44.5%、336人)

平成19年12月調査

番号	高校名	在籍生徒数 (学校要覧から抜粋)	利用者数				利用率	備考
			合計	1年	2年	3年		
1	加茂(本郷校舎)	888	29	8	7	14	3.3%	
2	加茂(白川校舎)	94	0	0	0	0	0.0%	
3	加茂農林	570	14	5	6	3	2.5%	
4	八百津	314	40	内訳不詳			12.7%	
5	東濃	371	208	71	48	89	56.1%	
6	東濃実業	755	176	68	55	53	23.3%	雨天時等では336人(44.5%)
7	可児	953	39	18	15	6	4.1%	
8	可児工業	573	11	内訳不詳			1.9%	
9	美濃加茂	960	10	内訳不詳			1.0%	
10	帝京可児	495	0	0	0	0	0.0%	
合計		5,973	527				8.8%	

集計 東濃実業

(7) 名鉄広見線(新可児駅～御嵩駅)の経営状況 (資料提供: 名古屋鉄道)

単位: 万円

区分	16年度	17年度	18年度
経常損益	▲ 23,932	▲ 24,208	▲ 24,576
営業係数	328	341	356

営業係数: 100円の収入を得るのにどれだけの費用を要するかを表した数字

この路線だけで年間2億4千万円を超える赤字経営をしています。

18年度区間収支(単位: 万円)

収入	営業収入	旅客運賃	8,485
			その他
	計		9,553
	営業外収入		36
合計			9,589

支出	営業費用	人件費	19,129
		修繕費	3,560
		その他	10,285
	計		32,974
	営業外支出		1,191
合計			34,165

経常損益 (①-②)

24,576万円

営業係数 (②÷①)

356

②

名鉄広見線(新可児駅～御嵩駅)対策協議会 平成20年度事業計画(案)及び予算(案)

平成20年度事業計画(案)

項目	実施日	内容
第1回対策協議会	5月2日	規約、事業計画、予算等の承認について 広見線の現状について など
第2回対策協議会	7月ごろ	名鉄からの状況説明等について
第3回対策協議会	10月ごろ	広見線の活性化に向けた基本的な考え方等について
第4回対策協議会	未定	広見線の活性化の計画等について

平成20年度予算(案)

(単位:円)

歳入科目	予算額	内訳
1 負担金	300,000	御嵩町 100,000 可児市 100,000 八百津町 100,000
2 その他雑収入	1,000	預金利息等
合計	301,000	

(単位:円)

歳出科目	予算額	内訳
1 報酬費	260,000	委員等報酬 5千円×13名×4回
2 会議費	20,000	会議賄等
3 事務費	21,000	通信費等
合計	301,000	

今後の事業予定について

事業計画予定(案)

(1)調査事業

国の公共交通活性化総合プログラムのデータ等を利用し、名鉄広見線（新可児駅～御嵩駅）の利用促進の効果的な手立て等について活性化の計画を策定する。

合わせて、鉄道以外の交通手段を含む運行方式や経営のシミュレーション、地域への波及・効果の検証を経て、今後の方向性を導き出す。

(2)啓発事業

名鉄広見線（新可児駅～御嵩駅）の活性化に向けた基本的な考え方等を受け、利用促進等を啓発する。

追加予算予定(案)

収入

市町負担金 7,000 千円程度…可児市及び御嵩町で折半して負担する。

支出

- | | |
|-----------|------------|
| (1) 調査委託費 | 6,500 千円程度 |
| (2) 啓発費 | 400 千円程度 |
| (3) 研究費 | 100 千円程度 |

<調査事業予定内容>

- | |
|--|
| 1 名鉄広見線の現状の整理 <ul style="list-style-type: none">・ 広見線沿線の状況・ 広見線の現状 |
| 2 広見線に関するアンケート調査・シミュレーション等 <ul style="list-style-type: none">・ 住民アンケート調査・ 利用者アンケート調査・ 広見線駅利用者数調査・ 活性化策とシミュレーション |
| 3 広見線沿線における交通の問題と課題 |
| 4 広見線の活性化に向けての基本的な考え方 |
| 5 広見線の活性化に向けての目標 |
| 6 活性化の計画策定 |

- | |
|----------------------------------|
| 1 運行方式（バス化を含む）ごとの運行経営予測調査 |
| 2 運行方式（バス化を含む）ごとの地域への波及・効果の検証 など |

公共交通活性化総合プログラムとは

各地域における公共交通機関に関して、住民・利用者に対するサービスの維持やサービスの内容の拡充など、その解決や実施が必要な課題について地域の努力では解決や実施が困難な事案について、中部運輸局及び各運輸支局が中心となって、国、地方公共団体、交通・観光事業者など関係者に参画・協力を呼びかけ、その解決に向けた関係者間の合意を得ながら、総合的な具体的方策を策定するための制度です。